マレーシアにおける美術教育調査報告(1999)

－ペナン、コタバルの教員養成学院の事例－

福田　隆眞・佐々木　宰*

The Research of Art Education in Malaysia(1999)

Takamasa FUKUDA and Tsukasa SASAKI*

(Received October 15, 1999)

キーワード；マレーシア、美術教育、カリキュラム、教員養成

目次

はじめに
1　ペナン教員養成学院について
2　美術教育カリキュラムと実践
3　コタバル教員養成学院について
4　美術教育カリキュラムと実践
おわりに

はじめに

本稿は、マレーシアにおける美術教育の調査の一環であり、同国の教員養成機関のカリキュラムと実態調査を報告するものである。(注１)

今回は、前回までに調査を行ったクアラ・ルンプールに設置されている特別教員養成学院（Maktab Perguruan Ilum Khas, Kuara Lumpur）とは別に、全国に31設置されている教員養成学院で、ペナンとコタバルについて取りあげ、その現状を報告する。(注２）この２つは伝統的な文化を美術教育の環境として有しており、ペナンでは歴史的に中国系の文化が多く継承されいる。一方、コタバルではマレー人がその多くを占め、マレー文化を根強く残しているという状況がある。こうした伝統的文化と美術教育の教材についても考察を試みる。

*北海道教育大学釧路校

1　ペナン教員養成学院（Maktab Perguruan Persekutuan Pulau Pinang）について

ペナンは、マレー半島西海岸の北部に位置する小島である。マレー半島西海岸は、南部のマラッカなどで知られるように、古くから交易によって栄えた地域であり、18世紀後期からは英国による植民地政策の拠点となった。そのため、美術に関してはマレーシアの中でも早くから西洋絵画が伝えられ、マレーシア美術の先駆者たちを輩出している。また、民族構成からすると歴史的に華人が多く、現在でも70パーセントを占めている。

（1）ペナン教員養成学院の沿革（注3）

ペナン教員養成学院では、約2000人の学生が在籍しており、152人の教官、140人の事務官によって、初等・中等学校教員の養成が行われている。

同校の歴史的な背景には、後述するコタバル教員養成学院との関わりがある。マレーシアにおける初の教員養成学院（MTTC: Malaysia Teacher Training College）は、1954年にクランタン州コタバルに開設された。その後、1956年9月にペナン州に一部が移転されている。ペナン教員養成学院はその草創期から数学と科学の教員養成学院として知られていた。しかし、マレーシアの深刻な教員不足に対処するため、この学院は様々な学問における初等・中等学校教員の養成を引き受けることになり、現在に至っているが、数学・科学は現在も同校を特徴づける重点領域となっている。

（2）組織

ペナン教員養成学院の組織は学長Tn. Hj. Mohod. Omar A. Abdul Rahman, P.J.C., P.J.K.（1999年8月現在）のもと、各学科とユニットは以下のように構成されている。

・学生課
・教育学科
・言語学科
・数学・科学学科
・社会学科
・イスラム技術・イスラム市民教育ユニット
・情報技術ユニット
・音楽ユニット
・身体・健康教育ユニット
・試験ユニット
・総合カリキュラム活動ユニット
・リソースセンター

このうち、美術教育は社会学科に属している。

（3）社会学科

1996年8月以前、この学科は美術教育、国史教育、家政、道徳教育、家庭経済などの教員養成を行うユニットから構成されていた。しかし、これらの科目は、試験を必要としない科目で、活動の過程などから評価するような状態であった。1997年8月から、教育ディプロマ（Malaysian Diploma of Education）コースの学生が加わるにあたって、家政、道徳教育、美術教育などの科目は、新しいディプロマカリキュラムのもとで試験を行う科

目に改められた。1996年の９月には、生活技術ユニット（５人の講師、２人の実習助手)、商業ユニット（２人の講師）が社会学科に加わっている。この学科の内容について、使命、目標等については以下のようになっている。

１）社会学科の使命

・家政、生活技術、美術教育の科目における理論と実践に携わる、能力の高い、また技術のある教師を養成すること。
・道徳教育の学習を通して、誠実で良識のある前向きな教師を養成すること。
・経理、商業や経済、そのほか学校生活や日常生活における知識や技術を応用できる分野に精通した教師を養成すること。
・国家教育哲学という大志に従って、全体的・統合的に、教員の個々の可能性を引き出すこと。

２）目標

・教育における理論と実践の両面にわたって知識と技術をもった教師を養成すること。
・講師の努力によって高いレベルを維持すること。
・学科のスタッフと学生の中で、自らを高めるようにすること。
・学科の中でよき環境を形成すること。

３）講師の宣言

・家政、美術教育、道徳教育、経理、生活技術、家庭経済、コミュニティと消費運動の科目において、高度の教育を提供する。
・質の高い、効果的な教材を十分に準備する。
・学生に対して誠意、配慮、思いやりのある態度をもつ。
・実習や、連携カリキュラムでの活動、指導に関しては、献身的にガイドと監督を行う。
・生活技術、園芸、美術教育、家庭経済、コミュニティと消費者運動などの科目の実習中は、安全と規律を維持する。
・評定・評価については円滑に、効果的になされるようにする。
・学生を、よい人格とアイデンティティをもった教師になるように導く。

2　美術教育カリキュラムと実践

美術教育は、マレーシア国内の他の教員養成学院と同じカリキュラムに基づいてなされている。このカリキュラムについては、拙稿において既に紹介しているので、その詳細についてはここでは割愛する。(注４)

８月26日の取材時には、美術担当講師 Ms.Lim Huey Khing女史から美術教育の実践について話を聞くことができた。また、いくつかの美術教育の施設を見ることができた。

美術教育の教室は、実習用教室と講義及び演習用教室の２つがある。マレーシアの教員養成学院では、美術教育は副専攻（複数選択すべき専攻のうちの一つ）となっているために、それのみに重点的な施設が与えられていないのが現状である。教室には、学生作品が展示されており、それらは、絵画（油彩、アクリル)、デザイン（グラフィックデザイン)、工芸（木工・木彫、染め、バティック等）である。技術的に高い水準であるとは必ずしも言えないが、小学校における美術の指導や教材の実体を考慮しつつ、教師教育が行われていることがわかる。また、バティックは、アニャマンなどとともに、マレーシアの伝統的

な美術工芸文化をもとにした教材であり、同国の美術教育の特徴と一つとなっている。

美術の実践として、絵画では写実的な表現だけでなく、表現主義的、心象表現的な作品制作を行っている。材料は水彩、油彩である。(図1、2)また、同じく平面の作品としてデザイン・構成があり、幾何学的形態と有機的形態を利用して色彩の学習も採り入れている。(図3、4)それらの基礎学習として絵画表現とも重複する対比や線による造形要素の学習も行われている。(図5)材料を工夫した平面的で工作的な練習としての作品のように創造性や遊びを重視したものも採り入れられている。(図6)工作的な作品では紙や粘土によるもの、バティックなどが行われている。(図7、8、9)工作に関連して、伝統文化の継承という観点からの教材として、凧作りが代表的である。(図10)機能と模様のデザインの修得を目的としている。また、実際に使うものとして工芸を表現的に捉えた教材も試行されている。(図11)そのほかに伝統的工芸として、木彫と陶芸が教材で扱われている。(図12、13)

3　コタバル教員養成学院(Maktab Perguruan Kota Bharu)について

コタバルはマレーシアの北東部のクランタン州の州都である。歴史的にマレー人が多く、現在でも90パーセント以上を占めており、伝統的なマレー文化を継承している地域である。

コタバル教員養成学院(Maktab Perguruan Kota Bharu)は小学校の教員養成を目的とする教育機関である。(注5)その概要については、同校の出版物からすると以下のようになっている。(注6)

(1)概要

コタバル教員養成学院はクランタン州のコタバル、プンカラン、チュパに93エーカーの広さをもって建てられた。その組織はイギリスのカービーとブリンフォードの2つの教員養成学院を統合・再編して作られた。この学院は公式には1954年10月11日にマレー連邦高等弁務官のドナルド・マック・ギリバリー(Sir Donald Mac Gillivary)によって開設された。彼の講話のなかで、MTTC(Malayan Teacher Training Collegeマレー教員養成学校)はその時点で有名であり、将来重要な責任を担うことが望まれていたと述べられている。その当時、MTTCは中等教育の教員養成として第二次世界大戦後に開設された初めての教員養成学院であった。

1957年にマレー教員養成学校は小学校教員養成に機能を転換した。コタバルのマレー教員養成学校の2年制は1957年に開始されたペナンの教員養成学校に移った。

今日この教員養成学院はコタバル教員養成学院として知られており、40年にわたって様々な変化と進歩を遂げている。コタバル教員養成学院は教育の分野で国家の期待を実現することに応えてきた。

(2)組織と設備

1)研究教育組織

コースの経営、管理のためにコタバル教員養成学院は学科とユニットを以下のように組織している。

・教育学科
・マレー語学科
・英語学科

・科学数学科
数学ユニット、科学ユニット、体育健康教育ユニット
・社会学科
音楽ユニット、美術教育ユニット
・イスラム宗教教育学科
2）事務組織
・事務局
・学生課
・入試課
3）教職員数
教官112名　事務官67名
4）教員研修生　2180名
5）施設・設備
・大講堂（1000名収容）
・旧講堂（400名収容）
・小講堂（70名収容）
・図書館（300名収容）
・学生寮（5棟、700名収容）
・モスク（500名収容）
・音楽室と数学室（最新設備完備）
・グラウンド（様々なクラブ活動のできるグラウンド）
6）現在設置されているコース
・小学校基礎教員コース
マレー研究、数理科学、英語研究、科学、イスラム宗教研究、音楽、数学
・学位修得後の教員コース
マレー歴史研究、基礎経済と簿記、マレー地理研究
・インサービスコース（1年間の専門コース）
マレー語教育（小学校）、数学教育（小学校）、学力遅滞の回復教育、問題児のための教育
7）課外活動
コタバル教員養成学院は教育課程と課外活動の両方を強調している。課外活動は主に3つに分かれている。
・協会の活動
マレー語協会、英語協会、生活改善協会、カウンセリング協会
・団体の活動
ボーイスカウト、イスラム女性団体、ブラン・サビ・メラ団体、軍隊、セント・ジョン・アンビュランス団体、合唱団、ガールスカウト
・スポーツ活動
サッカー、セパタクロ、バレーボール、ピンポン、テニス、バドミントン
（3）目的、機能、ビジョン
1）機能

コタバル教員養成学院は次のような機能をもっている。

・優秀で、教師としての見栄えがよく、教育と研究に一生懸命携わる教師の育成をする。
・進歩的、科学的であり全ての変化に敏感な教師を育成する。
・自分自身、社会そして国家に幸福をもたらす高貴な性格の人間を育成する。

2）目的

前述の機能に加えて、以下のような教師の育成を目的としている。

・訓練を受けたものであること、博学であること、命令権を持っていること、教師としての見栄えの良いこと、献身的であること、責任感があること、規律を守ること、努力すること、公民的であること、共感がもてること、忍耐力があること

3）モットー

教育研究と教員研修のセンターとして、コタバル教員養成学院は常に優秀な教員を養成するための計画と実行をしている。実際にコタバル教員養成学院は「強固でいつも前進し、優秀で高貴な教育の基礎」というモットーを規範としている。このモットーはいつの時代もコタバル教員養成学院の人々の文化と学問の鍵となっている。

4）ビジョンとアイデンティティ

コタバル教員養成学院は現代の変化と願望に常に敏感である。例えば、現在マレーシアでは、数学の教授と学習、そして理解力の危機や伝統文化の位置づけの問題に直面している。これらに対して、コタバル教員養成学院では、現代の状況に敏感で対応のできる力をもち、知識が豊富ですばらしい理想を有して学問を理解し、創造とロマンをもって現代に接近しながら教授することができる数学と音楽の教師の育成をするというビジョンを決定した。このビジョンはアイデンティティを通じて実現される。「数学と伝統音楽の優秀なセンター」である。このビジョンを達成するために、数理学科は最新の設備を完備した。音楽ユニットは特に伝統音楽の楽器をもって組織化された。この設備は現代の教育を遂行する教材となっている。

以上のような内容で教員養成を実施している。マレーシアの教員養成学院のなかでも古い歴史を有しており、優秀な教員を輩出している。学内には記念館を設置して内容の展示をしている。(図17～22)

4　美術教育カリキュラムと実践

美術教育のカリキュラムについては、教員養成学院はマレーシアのいずれにおいても基本的に同一のシラバスに基づいて実施されている。従ってコタバル教員養成学院においても基本的内容は既に報告したようなカリキュラムで行われている。(注７）このカリキュラムでは美術の実践としては次のような内容がある。絵画、彫刻、金属工芸、陶芸、グラフィック、テキスタイル、アニャマン、プリント、民芸などである。この特徴としては美術の広い分野を修得するということと、美術教育としての理論と教育方法を重視していることである。このような観点で美術の実践が行われているが、基本的には材料による表現技術の習得、表現分野の体験的修得、伝統的文化の学習といった内容に志向されている。

美術の実践としてはペナンの場合と同じく、絵画があり、水彩と油彩によって、写実的な表現を主に制作している。(図23～26）グラフィックでは、イラストレーション、模様、幾何学的表現等がある。(図27～30）伝統的工芸はバティックを重視しており、作品自体

はそれほど大がかりなものは見られなかったが、技術習得と表現力の育成に努めているように見受けられた。(図31～35) 他の工芸では木彫が行われていたが、設備の問題から活発ではなかった。(図36、37) 他に授業としてはインテリアデザイン等も実施されており、そこでは実際のデザインよりも、デザインの内容を調査することを重視し、教材ごとに学生に報告書を作成させている。(図38) このような報告書の作成は、技術を伴う授業科目ではほとんど実施されており、美術の実践を通して美術教育の内容を確認させる有効な手段となっている。

同校の美術教育ユニットでは教官2名という状況で、筆者の調査を担当していただいたアジズ氏 (Ab. Aziz Ab. Rahman) と他に1名の講師でほとんどの授業を開設している。従って、教員養成の統一的カリキュラムに基づいてなされている教員養成でも担当者の相違によって実践の差異が生じてくるのは当然のことと考えられる。

おわりに

以上、ペナンとコタバルの教員養成学院についての調査の報告をしたが、基本的にカリキュラムについては統一カリキュラムでなされているので、授業科目についてはいずれも大きな相違は見られない。しかし、教員構成や地域性によって特徴が現れると思われる。今回の調査対象は地域性を考慮して行ったが、伝統的な文化の保存、継承、教育という点に関しては、民族構成の異なるペナンとコタバルにおいてもほとんど相違はなく、マレー文化の継承を教材として美術教育もそれを担っていると考えられる。民族構成からするとペナンは華人が半数以上を占め、中国の伝統文化が日常的に継承されている地域である。これに対して、コタバルは90パーセント以上がマレー系である。しかしながら、いずれの学院においてもマレー文化の一部としての、凧、陶芸、バティック等を教材として取りあげており、マレーシア全体の伝統文化の継承という観点でカリキュラムが作成されている。

次に、美術教育にける美術制作の点では、どちらも小学校教員の養成という目的から、教育理論、教育方法、美術理論が重視されていて、実技に関しては美術の表現分野を広く修得、体得するという目的が重視されているように見受けられた。従って、作品の完成度ということでは十分とはいえないが、作品制作に当たっての知識、技術の修得という点では教材研究としての内容が重視されているといえる。

今回の調査では、上記の教員養成学院の他に1997年に設立されたスルタン・イドゥリス教育大学 (Universiti Pendidikan Sulutan Idris) の調査も実施した。(注8) これは教員養成学院から昇格し、教育大学となったものである。本稿では紙面の関係から割愛している、同教育大学については別に稿を改め報告する。教員養成学院との基本的な相違は教員養成学院が小学校教員の養成を目的としているのに対して、教育大学は中等学校教員の養成を目的としている点である。美術教育の中等学校教員の養成は現在でも芸術学部などの総合大学でも行われているが、教員養成としての教科専門をより明確にしたのが教育大学であると考えられる。

付記

本稿の作成に当たり、1、2を佐々木、3、4を福田が担当し、全体を福田がまとめた。

注

1　本研究は、平成10、11、12年度文部省科学研究費補助金（基盤研究Ｂ国際学術調査）「東南アジアにおける美術教育カリキュラム基礎調査研究－マレーシア、シンガポール、インドネシアの事例－」（研究代表者　福田隆眞　研究分担者　佐々木宰　小平征雄、課題番号　国10041075）に基づく調査の一部であり、1999年８月25日より９月15日に実施したもの報告の一部である。

2　Maktab Perguruan Ilum Khasa Kuala Lumpur については、その内容を既に報告している。佐々木宰、福田隆眞「マレーシアの教員養成における美術教育について」（北海道教育大学釧路校、釧路論集第31号　1999）

3　この項の記述はについては８月26日の調査とインターネットの資料による。MPPPP; Maktab Perguruan Persekutuan Pulau Pinang, Bukiti Coombee 117000 P. Pinang

4　筆者は既に次の報告によって、教員養成のシラバスについて述べている。佐々木宰、中矢礼美、福田隆眞「マレーシアにおける美術教育教員養成シラバスについて（資料）」北海道教育大学紀要（教育科学編）第50巻第１号　1999年８月

5　Maktab Perguruan Kota Bharu, 16109 Pengkalan Chepa Kota Bharu Kelantan

6　Visi dan Identiti 1995,　Maktab Perguruan Kota Bharu

7　前掲４に同じ。

8　UPSI（Universiti Pendidikan Sultan Idris, 359000 Tanjong Malim, Perak Darul Ridzuan）はクアラルンプールか北に60キロのペラ州タンジョンマリムにあり、1997年に前身のMaktab Perguruan Sultan Idrisを改組・昇格したマレーシアで最初の教育大学である。同大学の美術教育カリキュラムと実践についても本年度調査を行ったが、稿を改め報告する。

参考文献

・佐々木宰、中矢礼美、福田隆眞「マレーシアにおける美術教育教員養成シラバスについて（資料）」北海道教育大学紀要（教育科学編）第50巻第１号　1999年８月

・Bahagian Pendidikan Guru Kementerian Pendidikan Malaysia, Sukatan Pelajaran Diploma Perguruan Malaysia, Pengajian Pendidikan Seni, 1997

謝辞

本調査に当たり以下の方々の協力を得ました。改めて感謝の意を表します。

・Zaidi Abdul Hamid, Pusat Perkembangan Kuikulum Kementerian Pendidikan Malaysia

・Lim Huey Khing, Maktab Perguruan Persekutan Pulau Pinang

・Ab. Aziz Ab. Rahman, Maktab Perguruan Kota Bharu

・Puan Hji Zawiah Ramli, Maktab Perguruan Kota Bharu

・Ismail Bin Jaafar, Maktab Perguruan Kota Bharu

・Malini Binti Ismail, Persatuan Alumini Program Pershahabatan Asean-Jepun Abad Ke 21

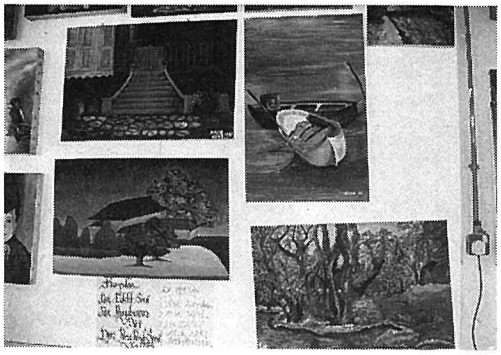

図１　絵画作品

図２　絵画作品

図３　平面構成作品

図４　平面構成作品

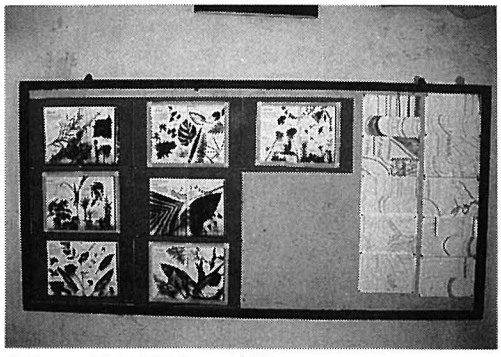

図５　造形要素の練習

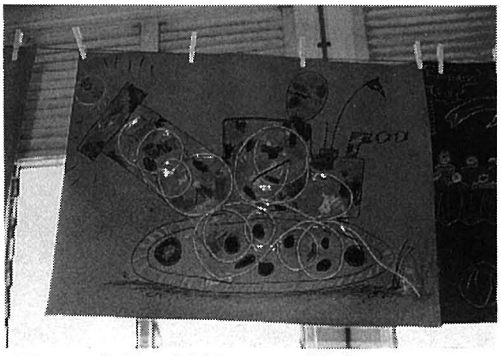

図６　多種の材料の平面構成

図７　工作作品

図８　工作作品

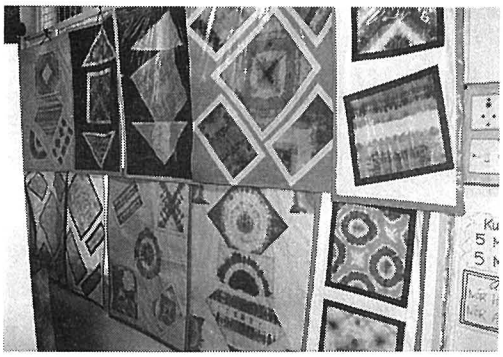

図9　バティック作品

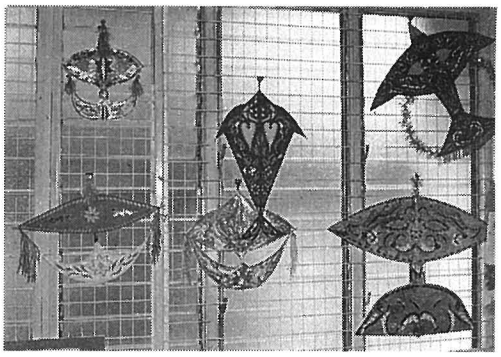

図10　凧

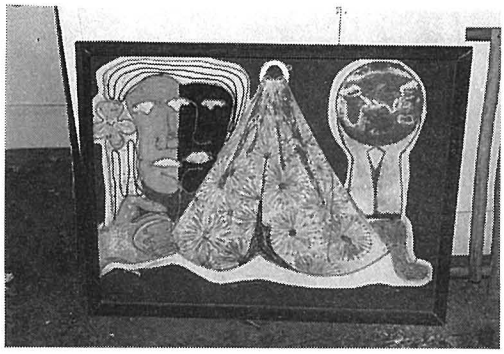

図11　工芸作品

図12　木工作品

図13　陶芸作品

図14　Lim Huey Khing
（左から２人目）

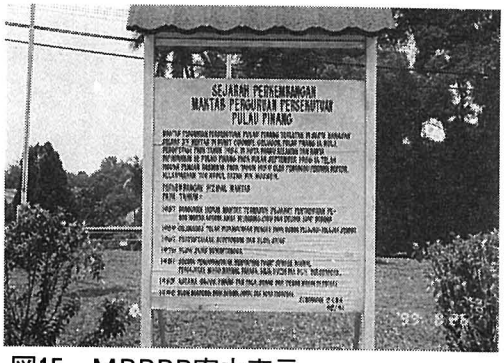

図15　MPPPP案内表示

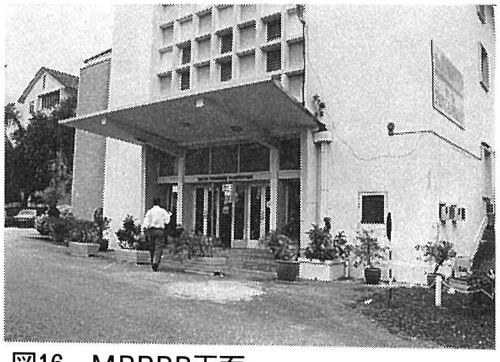

図16　MPPPP正面

図17　MPKB正面

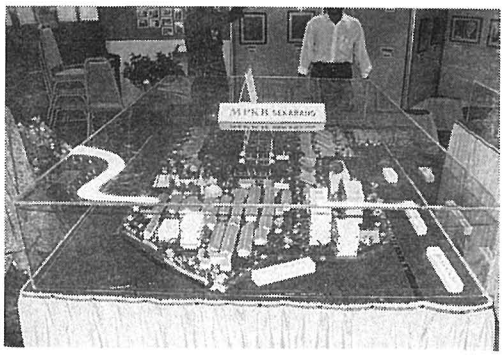

図18　MPKB全体模型

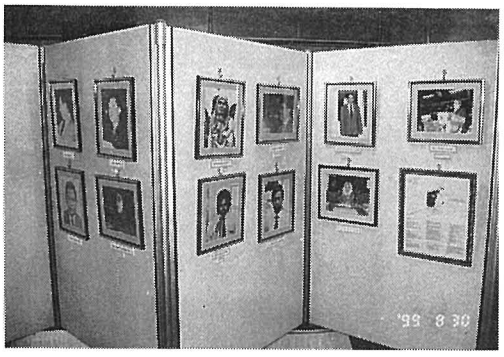

図19　歴代学長写真

図20　交流記念品

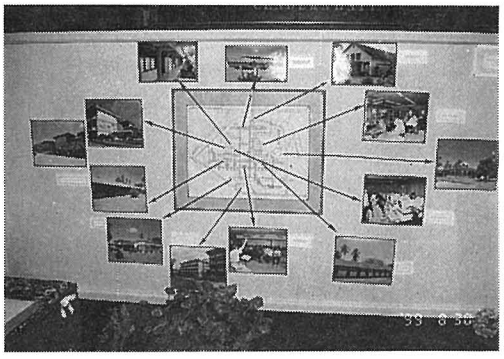

図21　建物案内図

図22　過去の教材・用具展示

図23　絵画作品

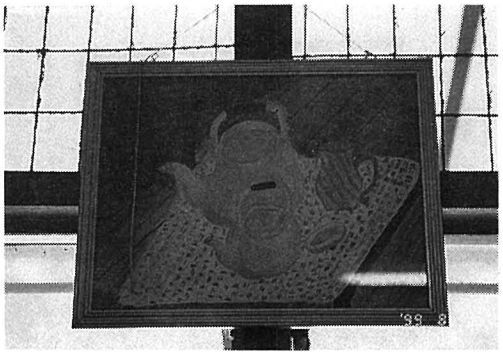

図24　絵画作品

図25　絵画作品

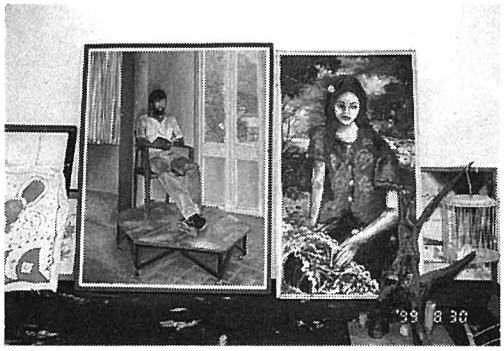

図26　絵画作品

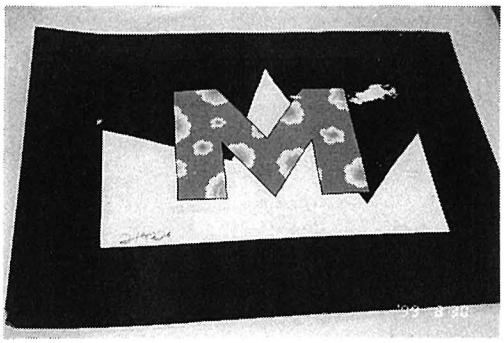

図27　グラフィック作品

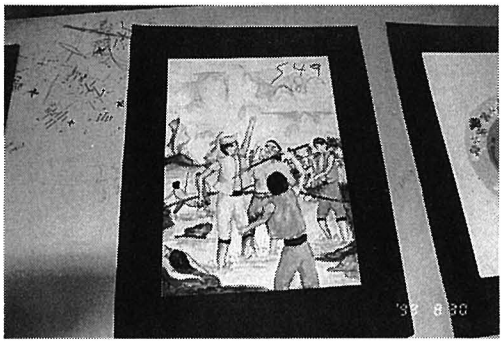

図28　イラストレーション

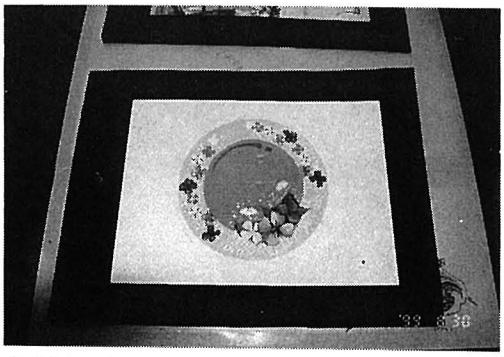

図29　イラストレーション

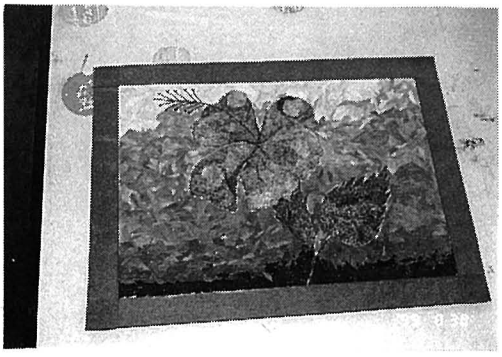

図30　イラストレーション

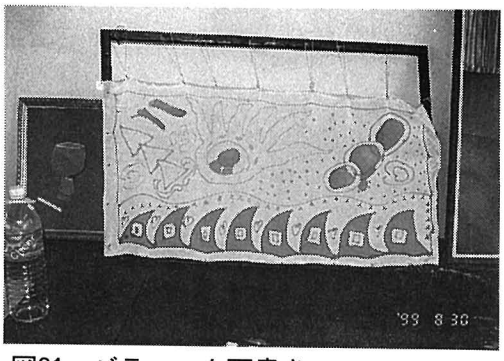

図31　バティック下書き

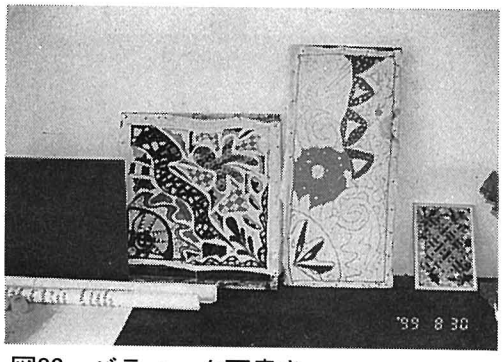

図32　バティック下書き

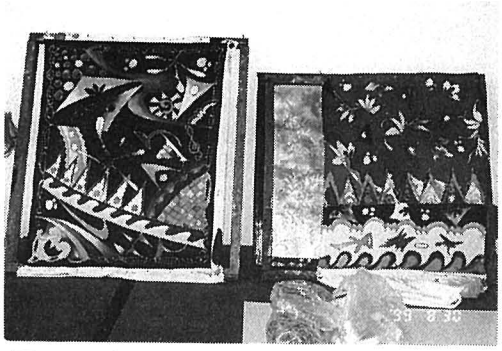

図33　バティック作品

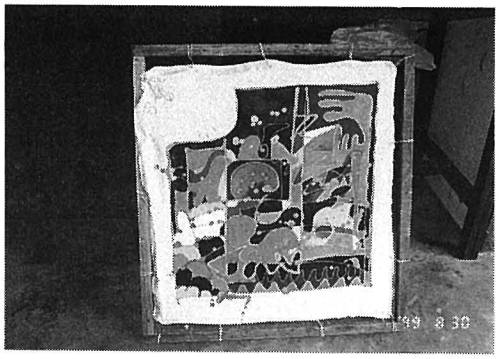

図34　バティック作品

図35　バティック制作

図36　木工作品

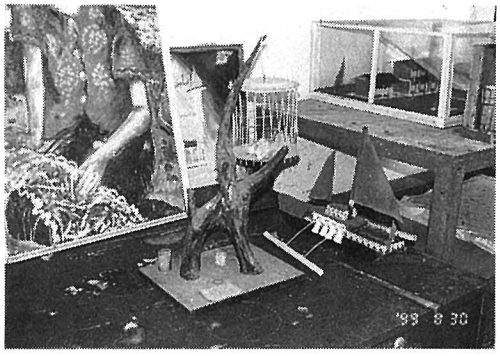

図37　木材彫刻

図38　教材レポート

図39　Ab. Aziz（左から２人目）
Ismail（右端）